



思い出のリュックサック



庄内町長 富樫 透

先日、学生時代の友人から荷物が届きました。「なんだろう」と思いながら開けてみると、山形36団SS富樫透と名前のあるキスリング型のリュックサックが出てきました。

添えられた手紙には、「4年前に父が、昨年母が他界し、実家の整理をしていたら40年前のサモアエアラインの荷物タグがついた懐かしいリュックサックを見つけました。捨てるに忍びなく持ち主に返します」とありました。思い出してみると、彼が青年海外協力隊でサモアに赴任する時に、高校時代から使っていたリュックを餞別代わりにあげたものでした。

モンベル社の創業が1975年、パタゴニアが1973年、ノースフェイスが1968年ですから、1970年代後半でもテント同様ナイロンのリュックはまだまだ流通しておらず、ほとんどが布製だったように思います。

月山、鳥海山、蔵王、朝日岳、八幡平、栗駒、富士山、日本ジャンボリーなどこのリュックは色んなところへ連れて行ってくれました。そして、サモアへも行ったのかと思うと長年の友人のようにも思えてきました。同時に、学生時代に彼や家族のみなさんにお世話になった事などが、昨日のことのように思い出されました。

来年定年を迎える彼は、サモアで船の建造の仕事に携わる予定だそうです。サモアへの恩返しと第2の人生のスタートだそうです。

思い出も色あせませんが、リュックも40年前の物と思えないほど劣化してないので、来年は月山開山祭に連れて行こうと思います。改めて、仲間最高と思える出来事でした！